

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170400097		
法人名	社会福祉法人宏友会		
事業所名	グループホーム風車の家		
所在地	北海道札幌市西区宮の沢490番地87 (電話) 011-666-8514		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月13日

【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	19,000~21,000 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	260 円	おやつ	40 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	6 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤田医院、宮の沢総合クリニック、いとう歯科、北都歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、自然豊かな場所に位置し、近隣には同法人の特別養護老人ホームがあり、ケアサービスの連携が取りやすい恵まれた環境に立地している。利用者に対する職員の対応は、常に穏やかであり、その人らしい生活を第一に考えて利用者本位の対応を実践している。職員は、自己評価・外部評価を活かし、更なるケアサービスの質の向上を目指して日々取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価における課題は、「重度化や終末期に向けた方針の共有」「災害対策」の2点である。重度化・終末期に向けた方針については、引き続き懸案事項であり、今後の取り組みが期待される。災害対策については、改善に向けて取り組んでおり、成果が現れている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価表を提出し、全職員参加による自己評価を展開している。また、職員は、自己評価を日々のケアを振り返る機会としており、向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の運営推進会議では、消防署員を迎えて、避難誘導の仕方をテーマのひとつに取り上げ、着実に災害対策等の改善活動に活かしている。また、運営推進会議をきっかけとして、町内会長など地域住民とのコミュニケーションも活発化している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、1ヶ月に1回「たより」を出し、年4回「新聞」を発行し、また、その都度電話における報告・連絡・相談を実践するとともに、行事等へ家族が参加する機会には意見用紙を提出してもらうなど、家族等への報告や、意見の反映を実践している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>正月の地域のもちつき大会、祭りへの参加や、近隣幼稚園との交流など、町内会長も交えて積極的に地域との連携を行っている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が目指すサービスのあり方を介護理念として、端的に示している。しかし、地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した内容を、文書化するまでには至っていない。	○	今後は、地域密着型サービスの果たすべき役割を反映した内容を、項目として加えるなどの取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や申し送りの機会を利用して、職員は理念を復唱するなどの、意識づけを実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	正月のもちつき大会や祭りへの参加、近隣幼稚園との交流など、地域住民と交流することに努めている。町内会長とのコミュニケーションも積極的に取るように努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員参加により、1ヶ月をかけて実施している。また、評価結果は毎月1回の会議等で検討し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議では、消防署員を迎えて、避難誘導の仕方をテーマにあげ、災害対策に対する取り組みを話し合い、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区や市の会議に参加している。また、札幌市から委託を受け、実習生を受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回、手書きの「たより」を家族に出している。また、年4回新聞を発行し、家族に報告している。その他、電話により、その都度家族に状況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が事業所を訪問する機会に意見等を聴き、事業所行事への参加機会に意見用紙を提出してもらうとともに、ケアプラン見直しの際には家族の要望欄を様式に設けるなどし、意見等を反映する努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員が代わる場合は、「担当職員は長期間の研修に参加しているためしばらく不在である」と利用者に伝えたり、新人職員が担当する場合は、半月くらいたってからじっくり利用者に接するなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所からの提案により職員は研修に参加するほか、本人の希望を考慮しながら、研修の機会を確保している。参加する職員の順番にも考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のペースで、西区の他事業所との会議や研修会に参加する機会を作っている。また、札幌市からの実習生を受け入れている。会議等への参加は、管理者が中心である。	○	現在は、管理者が主に会議・研修会へ参加しているが、今後は一般の職員も参加し、他事業所の人材の意見や経験をケアに活かす取り組みが望まれる。
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等との話し合いの上、利用者が利用を開始してしばらくは、家族も事業所に宿泊したり入浴してもらうなど、徐々に馴染めるような工夫を実践している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしい生活を第一に考えて、利用者の意思を引き出したり、洋服等を選択する機会を作るなど、場面づくりを意識した取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、利用者の思いや意向を把握するとともに、利用者本人が寿司等のメニュー表から好きなものを選ぶなど、自分で選択するような工夫をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活援助計画については、担当者が原案を作成し、計画作成担当者が計画書を作成する。その後、カンファレンスを行い、最終的に家族・本人の承認を経た上で計画を作成しており、利用者本位の内容になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用を開始して間もない利用者は3ヶ月毎に、その他の利用者は6ヶ月毎に、見直しを行っている。また、利用者の状態変化に応じて、随時見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に応じて、散歩や買い物への付き添い、家族の宿泊、入浴など、柔軟に対応可能な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やかかりつけ医への受診支援を行っている。受診は、家族の付き添いが原則であるが、状況に応じて職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の身体状況に変化が生じた場合は、その都度家族と話し合い、方針を共有しているが、終末期のあり方については至っていない。	○	重度化や終末期に向けた方針について、運営者と管理者・職員が、方針を共有する機会をもつことが望まれる。その上で早い段階から本人・家族と対応について話し合い、方針を共有することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを損ねることのないような対応をしている。また、記録物の名前はイニシャルで記載したり、書類は事務室に保管するなど、個人情報に関する取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物への外出など、一人ひとりの希望にあわせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量に応じて、配膳・後片付け等を職員と一緒にっており、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが可能であり、一人ひとりの希望に応じた入浴支援を行っている。入浴時は入浴チェック表に記載し、履歴がわかるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶を出したり、テーブルを清掃したり、後片付けをするなど、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、散歩や買い物などの外出支援を行っている。また、ケース記録に支援内容を記録している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、自由な暮らしを支援している。また、玄関に鈴を付けており、職員が利用者の出入りを把握するような工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防署の協力の下、避難訓練を行っている。しかし、職員のみでの参加であり、利用者が参加するまでには至っていない。	○	今後は、利用者も参加しての避難訓練を定期的実施することが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録しており、職員は把握している。また、栄養バランスの取れた献立となるよう配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内には、利用者の書道作品や写真などを飾っており、家庭的な雰囲気を感じている。また、利用者の馴染みの鏡などを配置し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や、過去に参加したダンスコンテストのトロフィー・人形・書道作品等を持ち込み、居心地よく過ごせるような空間となっている。		

※  は、重点項目。